# カナダにおける都市先住民のホームレス問題：モントリオールのイヌイットの事例を中心に

岸上伸啓
（国立民族学博物館・総合研究大学院大学）

＊日本カナダ学会第 50 回年次研究大会セッション１「先住民」＠関西学院大学西宮上ケ原キャンパス（2025 年９月 20 日土曜日）

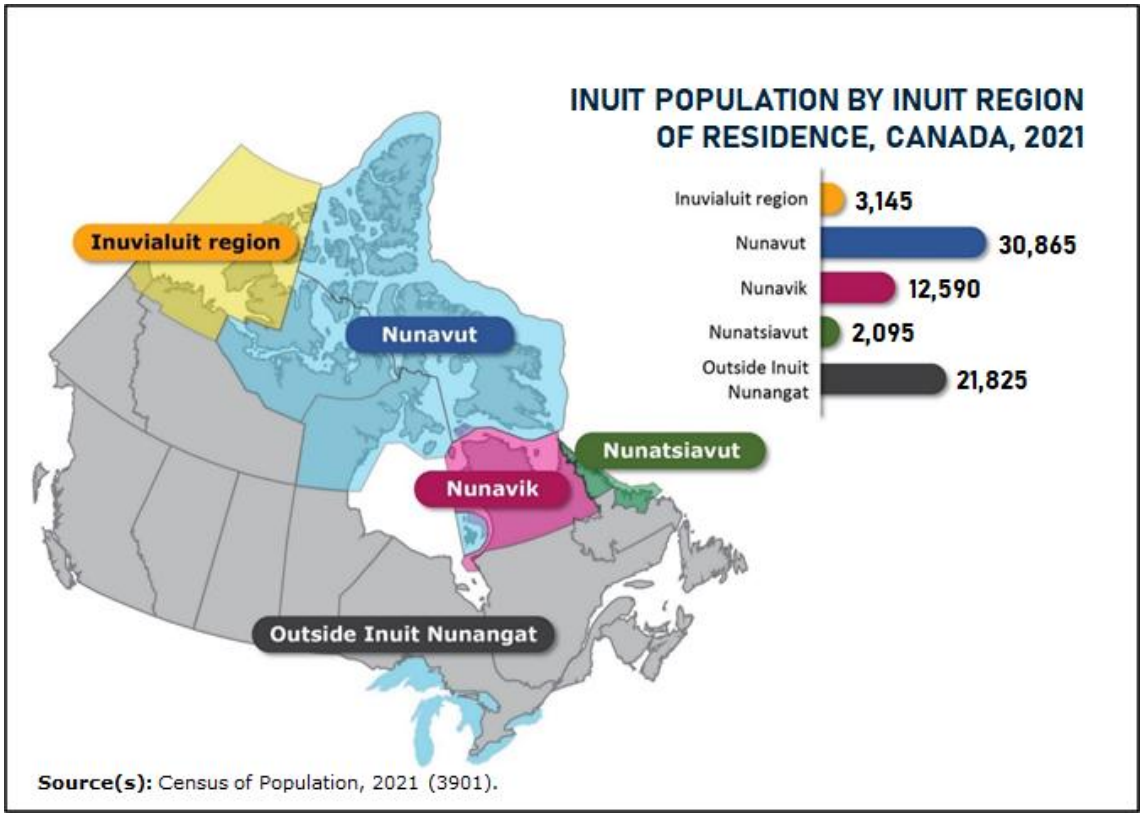
## 1. はじめに

カナダ政府は、特に 1970 年代半ば以降、先住民に対する同化政策を変更し、交渉に基づいて先住民の諸権利の実現をめざす政策へと変更し、先住民文化とその権利を尊重してきた。このことはカナダ先住民の政治的自律化を促進してきた。しかし、その一方でグローバル化の進展とともに、国内における先住民と非先住民の間で社会・経済格差が拡大しつつある。そして先住民の故地や保留地での社会・経済的問題は、多くの人々を都市への移住へと駆り立ててきた。都市に住む先住民の中には経済的に成功を収める者もいるが、貧困や社会問題に直面している者が圧倒的に多い。

カナダ極北地域を故地とするイヌイットは、1980 年代からカナダ南部への移住者が急増し、現在もその数は増加し続けている。2021 年の国勢調査によると、イヌイットの総人口は約 7 万人で、そのうち約 30%が極北地域以外の場所に居住している。

| 年 | イヌイットの総人口 | 都市イヌイット人口(イヌイット総人口に占める割合) |
|---|---|---|
| 1996 | 41,080 | 7,300 (17.8%) |
| 2001 | 45,070 | 8,485 (18.8%) |
| 2006 | 50,485 | 11,005 (21.8%) |
| 2011 | 59,445 | 16,700 (28.1%) |
| 2016 | 64,325 | 17,695 (27.5%) |
| 2021 | 70,545 | 21,850 (30.9%) |

表１：カナダ国勢調査に基づく 1996 年から 2021 年までのイヌイットの総人口と都市在住人口の変化 (イヌイット総人口に占める割合)




報告者は、1996 年から 2012 年にかけてモントリオールにおいて都市在住イヌイットの調査を実施し、その後も他の研究者や政府機関の調査結果をフォローしてきた。2025 年 9 月上旬にモントリオールにおいてイヌイットの現状についての情報を収集した。

本発表では、近年注目を集めているモントリオールのダウンタウンにおけるイヌイットのホームレスの現状と諸問題について考察する。なお、本報告では、便宜的に、カナダ南部地域在住のイヌイットを都市イヌイット、モントリオール在住のイヌイットをモントリオール・イヌイットと呼ぶ。

## 2　ケベック州モントリオールにおけるイヌイットのホームレス問題

### 2.1 モントリオール・イヌイットおよびホームレス・イヌイットの人口の増加

・モントリオールのイヌイット人口の増加

| 年 | 1996 年 | 2001 年 | 2006 年 | 2011 年 | 2016 年 | 2021 年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 人口数 | 365 人 | 435 人 | 570 人 | 900 人 | 975 人 | 1, 140 人 |

表 2　国勢調査に基づくモントリオール・イヌイットの人口の変化（筆者作成）

・2021 年の国勢調査によるとモントリオールには 1140 名のイヌイットが居住しており、オタワ・ガティノウ（1730 名）、エドモントン（1300 名）に次いで、イヌイット人口が多い都

市である(岸上 2022)。現在のモントリオール・イヌイットの人口は、2024 年の時点で約 2000 人のイヌイットがモントリオールにいると推定されている(Gallant 2024b)。
・モントリオールのイヌイット人口が増加するにつれて、ホームレスのイヌイット、貧困や社会問題に苦しむイヌイットも増加している。都市イヌイットのホームレスは、特に深刻な問題である(Kishigami 2008, 2015: 582)。
・先住民の中でもイヌイットのホームレスの割合が非常に高い。2018 年のホームレス統計調査によると、イヌイットはモントリオールの先住民人口全体の５％に過ぎないが、ホームレス先住民全体の 25%はイヌイットであるという (Direction de la santé publique de Montréal 2020: 29)。
・先住民友好センターやシェ・ドリや PAQ(Projets Autochtones du Québec)、Open Door などのシェルターなどが支援。
・2020 年ごろから COVID19 の大流行によって諸団体の慈善活動が制限されたため、無職のイヌイットの生活状況を悪化させた。2021-2022 年には 100 人から 150 人のイヌイットがホームレス状態を体験し、 2022-2023 年にはその数は 350 人に上昇したといわれている(Gallant 2024a)。
・2020 年の Covid-19 の拡大によって、モントリオールにあるシェルターや病院は受け入れ人数を制限せざるを得なくなったため、多くのイヌイットのホームレスの生活状況は悪化した。また、イヌイットの利用者が多かったシェルター「オープンドア」が、2018 年 11 月末にアットウオーター駅近くからパーク・ミルトン地区に移転していたため、ホームレス・イヌイットの生活域が変化した。

### 2.2 ホームレスのイヌイットが直面している諸問題

＊住居や仕事がないのは、大問題であるが、それ以外にもいくつかの問題に直面している。
① 慢性的な食料不足。特にカントリー・フードを食べる機会が極端に限られている。
② 栄養摂取状況の悪さと不摂生・不衛生な生活に起因する健康問題。
③ 社会的孤立：多くのホームレスのイヌイットは、他のイヌイットと情報交換をしたり、イヌイット語を話したりする機会が少なく、社会的に孤立している。情報格差の存在。
④ 飲酒・薬物依存問題：飲酒は暴力事件などを引き起こすきっかけとなっている。また、非先住民の男性がイヌイット女性に酒や麻薬・大麻を提供する代わりに、売春をさせたりするなどの搾取が行われている(Boucher 2019; Fanelli 2021)。オーバードーズによる死亡や救急搬送が頻繁に起きている[1]。
⑤ 非先住民や他の先住民による差別問題：多くのモントリオール・イヌイットが、警官やシェルターの職員、シェルターを利用している他の先住民から差別を受けていると感じている。

## ３　モントリオールにおけるイヌイット支援の歴史

### 3.1　イヌイットのボランティアによるモントリオール・イヌイット協会の設立と活動

・1990 年代後半から有職者のモントリオール・イヌイットが同胞の経済的社会的に危機的な状況に危惧し、月 1 回のフィースト（食事会）をボランティアで開催した。

・2000 年 3 月にモントリール・イヌイット協会が設立され、マキヴィクの経済的支援を受けて売店やワークショップを行なうことができるセンターを開設。

### 3.2　AMI の活動の停滞化

・2004 年頃から協会のリーダーシップをめぐる内紛とマキヴィクが経済的支援をうち切ったため、同協会は機能不全となる。

・月例フィーストは、65 回続いた夕食会も 2005 年 3 月を最後に一時休止。以降、不定期開催。2005 年頃～2015 年頃は、AMI の活動の停滞

### 3.3　南部ケベック・イヌイット（SQIA）協会の設立と活動の拡大

・2015 年にオタワのイヌイット支援団体 Tungasuvvingat Inuit (TI)が中心となって組織した全都市イヌイットコミュニティ対話集会(the National Urban Inuit Community Dialogue) に参加したモントリオール在住のイヌイットが、モントリオールにおいてイヌイット協会の再組織化を開始した。

・2017 年 10 月に非営利団体「南部ケベック・イヌイット協会」(Inuit Siqinirmiut Quebecmi Illaujut/Southern Quebec Inuit Association、SQIA)が正式に設立された(Edgar 2017)。現在、同組織は、2 か月ごとにモントリオール・イヌイットを対象にフィーストを主催するとともに、イヌイット語によるラジオ放送「ニピヴット」(Nipivut)の制作とマネッジメントを行なっている(Watson 2017)。SQIA は活動を、ドロップ・イン・センター機能やフードバンク機能など多様化させ、拡大させてきた。

### 3.4　ホームレス・イヌイットと COVID-19 の流行、そしてその後

・ホームレス・イヌイットはカボット・スクエア公園およびその周りにたむろしていたが、その近くにあったオープンドア・シェルターが 2018 年 11 月末にミルトン公園の近くに移転した[2] (Curtis 2018)。これにともない多くのホームレスのイヌイットがミルトン公園およびその周辺に集まるようになった 。もともと同地区に住んでいた住民から暴力事件や麻薬の不法売買、売春について苦情が出た。

・2020 年の COVID-19 の流行によってシェルターなどの慈善団体が活動を制限させることを余儀なくされたた。このことがホームレス・イヌイットの生活に甚大な被害を与えた。

・モントリオール市オンブズマンのナディーン・マイユ(Nadine Mailloux)が同地区の先住民ホームレスの生活状況を 6 か月間、調査した。ホームレスの大半はイヌイットであり、「耐えられないほどの人間の苦しみ」を被っていると報告し、モントリオール市やケベック州は対処する必要があることを指摘し、５つの提言を行なった (Canadian Press 2022; Mailloux 2022)。

## ４　連邦政府、州政府、地方自治体、先住民団体、支援 NGO 団体

・連邦政府：ワークショップや各都市地域のイヌイット協会の設立に資金援助

・ケベック州極北部のカティヴィク地方政府:職業訓練校などの開設と運営、「ウリヴィク」(Ullivik)の開設

・州政府と地方自治体：基本的には先住民に対し特別な支援なし

・先住民団体：カナダ・イヌイット協会やマキヴィクなどは都市イヌイットに関心あり。マキヴィクは、モントリオール・イヌイットに関係する様々な NGO 団体に資金援助。

・ＳＱＩＡやオープンドア、シェ・ドリ、ＰＡＱ、カヴィック・イヌイット家族/コミュニティ健康センター、モントリオール先住民友好センターなどの活動の活発化

## ５　カナダの先住民政策の限界と協働支援の可能性

・連邦政府の先住民政策の実施だけでは、都市イヌイットの生活を向上させることは難しい。例えば、モントリオール市は、都市先住民をはじめとする弱者を公共空間に包摂するための「Cohabitation Project」を開始した（公助)。

・南部ケベック・イヌイット協会の活動（自助）

・大学関係者の支援：コンコーディア大学のイヌイット語ラジオ放送の開設やラバル大学の医療センターの開設

・マキヴィクの資金的支援：シェ・ドリ、ＰＡＱ、医療センターに資金提供。

・複数の団体によるモントリオール・イヌイットへのサービスが重複している。政府を含め各関係団体が連携し、サービス内容を整理し、重複を削減することや、弱い分野を強化することによって、少ない資源を有効に使う支援体制を構築すべき。

## ６　結語

・カナダの先住民社会は大きく変わってきた。多くのカナダ先住民はカナダ南部の諸州・都市部に移住している。各州政府や地方自治体は先住民に対しては基本的には無策。オーストラリアでは、連邦政府、各州、各地方自治体が先住民政策の実施に関与しており、カナダとは大きく異なる。地域研究の視点に立ち、オーストラリアなどと比較すると、カナダの先住民政策は連邦政府が担うというのが特徴である。

・現在のカナダでは、モントリオール・イヌイットの事例を見て分かる通り、人権問題や住宅不足が深刻な問題であり、連邦政府だけでなく、州政府や地方自治体が関与せざるを得ない状況になっている。

・モントリオール・イヌイットのような都市先住民は、自助努力を基盤として慈善活動ＮＧＯや先住民諸団体、連邦政府、各州、各地方自治体などと連携・調整しながら自らの生活の質の向上を目指すことが必要である。

**参考・参照文献**

（和文）

岸上伸啓

2022　「カナダにおける都市在住イヌイットの社会・文化変化―モントリオールを事例として―」『人文論究』91：37-53。

（欧文）

Boucher, Philippe

2019　Inuit homelessness in Montreal: from the past to the future. https://www.researchgate.net/publication/346496833　(2025 年 8 月 28 日閲覧)

Canadian Press

2022　Indigenous people experiencing homelessness in Montreal a 'humanitarian crisis' By the Canadian Press. Published: (May 04, 2022) https://www.ctvnews.ca/montreal/article/indigenous-people-experiencing-homelessness-in-montreal-a-humanitarian-crisis/

Curtis, Christopher

2018　Montreal' s Open Door shelter eases into new quarters on Park Ave. Montreal Gazette, December 03, 2018 https://www.montrealgazette.com/news/article218282.html (access on January 27, 2025)

Direction de la santé publique de Montréal

2020　La santé des populations autochtones à Montréal, Un portrait réalisé par la Direction régionale de santé publique de Montréal, CIUSSS du Centre-Sud-de-l' Île-de-Montréal.

Edgar, Courtney.

2017　"New Group Formed to Represent Inuit of Southern Quebec." Nunatsiaq News, 1 November. Available at: https :/ /nunatsiaq.co m /stories/article/65 674new:group formed_ to represent inuit of southern quebec/ (last accessed 28 July 2020).

Fanelli, Lydia Nicole

2021　Utirumajunga (I Want to Return): A Look at Situations of Homelessness Among Inuit Women in Montreal. MA Thesis, Department of Sociology and Anthropology, Concordia University, Montreal, Quebec, Canada.

Gallant, Cedric

2024a Team ensures Inuit landing in Montreal get where they need to go. Nunatsiaq News. March 18, 2024. https://nunatsiaq.com/stories/article/team-ensures-inuit-landing-in-montreal-get-where-they-need-to-go/(Access: 1st January, 2025)

2024b Qavvivik Health Care Centre Opens for Montreal’s Urban Inuit. Nunatsiaq News. March 19, 2024. https://nunatsiaq.com/stories/article/qavvivik-health-centre-opens-for-montreals-urban-inuit/ (Access: 1st January, 2025)

Kishigami, Nobuhiro

2008 Homeless Inuit in Montreal. Études/Inuit/Studies 32(1): 73-90.

2015 Low-income and homeless Inuit in Montreal, Canada: Report of 2012 Research. Bulletin of National Museum of Ethnology 39(4): p.575-624.

Mailloux, Nadine

2022 Don’t Look the Other Way: Homelessness among Indigenous and Inuit Persons Milton-Parc Area in Montréal (Investigation Report and Recommendations). Montreal: Ombudsman de Montréal.

Watson, M. K.

2017 Nuutauniq (moves in Inuit life): arctic transformations and the politics of urban Inuit mobility. American Review of Canadian Studies 47(2): p.189-205.

---

[1] モントリオールで主に摂取されている麻薬の種類は、フェンタニル（Fentanyl)、ヘロイン（Heroin)、メタンフェタミン（Methamphetamine)、コカイン（Cocaine）であり、オーバードーズの主な原因とされている。特に近年では、フェンタニル（Fentanyl）を中心とした強力な合成オピオイドの使用が大きな問題となっている。モントリオールでは、薬物使用者が安全に薬物を自己投与できる施設（Safe Injection Sites）や、ナロキソン（オーバードーズ時に使用する解毒薬）の配布など、被害を減らすための取り組みが行われている。

[2] 2016 年 12 月にモントリオール近郊のドバールに Ullivik が開設されるまでは、アットウオーター駅近くの YMCA ビルにヌナヴィクからの患者とその同行者が滞在していた。このため、YMCA に行くと加療にやってきた家族や親族に会うことができたが、現在はドバールまで行かなくてはならなくなった。このこともモントリオール・イヌイットがカボット・スクエア公園にたむろしなくなった理由のひとつである。